

横山隆一記念

まんが館

YOKOYAMA MEMORIAL
MANGA MUSEUM

館報

FUKU-FUKU

Vol.88

フクちゃん
と
はざまの時代

フクちゃん

横山隆一
(1959年)



横山隆一の代表作である「フクちゃん」。1936年の「江戸っ子健ちゃん」のわき役での登場から1971年の毎日新聞連載終了まで実に35年間にわたり愛されたキャラクターです。タイトルに「時代」とつくシリーズとして2020年度に開催した企画展「フクちゃん ハジマリノ時代」に続く第二弾となります。今回は朝日新聞での連載を終えた戦後から毎日新聞連載開始までの「はざま」の10年間に焦点を当て、どのような作品が描かれ、読者にどのように映ったのか、「フクちゃん」がもう一度求められた意味を収蔵品から紐解いていきます。

開催期間 ● 2024年10月10日(木)～12月1日(日)
場 所 ● 横山隆一記念まんが館企画展示室
時 間 ● 9:00～18:00 (最終入場は17:30まで)
休 館 日 ● 月曜日 ただし祝日・振替休日は開館
観 覧 料 ● 一般500円(400円)、高校生以下無料
※()内は団体(20名以上)料金
※65歳以上の方及び身体障害者手帳(1, 2級)、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介護者1名は半額料金
※企画展観覧者は、常設展示を観覧可
主 催 ● 高知市・横山隆一記念まんが館
主 管 ● 公益財団法人高知市文化振興事業団

あくび標本集 コマツシンヤ作品展

期 間●2024年7月26日(土)～9月16日(月・祝)
場 所●横山隆一記念まんが館企画展示室

2024年1月、フランスで開催されたアングレーム国際漫画祭におけるコマツシンヤさんの代表作『午後のあくび』の児童向け部門審査員特別賞受賞は、高知出身のまんが家が世界に賞された嬉しい報せでした。まんが館には、開館

画祭、「まんが作品」、「イラスト作品」、「装画・挿画作品」と構成を大きく4つに分けて、原画や書籍、コマツさんの収集物等を展示しました。企画展示室の最初の空間では、アングレーム国際漫画祭の受賞トロフィーやフランス語版コミックとともに、同漫画祭の紹介をしました。さらに、コマツさんが小学生のころから描き続けてきた創作ノートや学生時代に新聞に投稿した作品も併せて展示しました。



写真中央の猫の立体物が受賞トロフィー



『カタツムリ小笠原へ』の原画展示。メインのイラストのほか複数の小さなイラストと文字デザインが分けて作られている



描き下ろしイラストで作成したアクリルキーホルダーは大変好評でした

また、企画展オリジナルグッズの販売も行いました。描き下ろしていただいたイラストをもとに、缶マグネットやアクリルキーホルダーなどを作成し、書籍とともに多くの方にお求めいただけました。展示期間中の関連イベントとして「紙アプリ」というサービスを利用した参加型イベント「あくびワールドに遊びに行くよ」を実施しました。参加者が描いた絵をデータとして取り込み、プロジェクターで投影さらにその絵が動き出すというものです。投影する背景画はコマツさんに描いていただき、連日多くの子どもたちの絵がコマツさんの絵の中をたどる、展示と併せてたくさんの方々に楽しんでいただきました。コマツさんの多大なご協力もあって、企画展描き下ろしイラストやたくさんの方の原画展示、限定グッズの販売など、来場者の皆さまに楽しんでいただける内容を揃えることができました。ご尽力いただいたコマツさんと、展示会場にお越しいただいた皆さまに、この場を借りて感謝申し上げます。

よろず収蔵品展

Face Avenue

「結成92年の漫画集団・

「昭和の名作」展」

期 間●2024年
4月25日(木)～7月15日(月・祝)
場 所●横山隆一記念まんが館企画展示室

2002年横山隆一記念まんが館の開館オープニング企画「漫画集団70周年展」で展示した作品の一部を22年ぶりに公開したこの企画展では、今年結成92年の「漫画集団」が、50周年を迎えた1982年に描いた「フクちゃん」や「アンパンマン」「アトム」「バカボン」など昭和を代表する人気まんがのキャラクターや似顔絵、まんが家の自画像などの「顔」作品50点を中心に、全部で75点を展示しました。

年配の方にとってはとても懐かし、昭和に子ども時代を過ごした方にとっては「小さいころに見ておぼろげに覚えているキャラクター」と「まんが家として名前を知っている作者」が初めて結びつく「顔」作品が多々あったようです。こうしたアンケートに寄せられた意見からも、「漫画集団」に所属するまんが家たちが、人気実力共に兼ね備えた一大勢力であったことが実感できました。

一方で、結成50周年に「顔の絵」が描かれた理由も、当館に寄贈された経緯も、明確に記録されたものを見つけないことが出来ませんでした。また、結成92年ともなると、団員の多くは鬼籍に入っており、現在の著作権の管理者に連絡がつかないことも。博物館として、管理と記録は必要不可欠であることを痛感した展示でした。

まんが館では、今後も不定期に「よろず収蔵品展」として、館所蔵の資料をテーマでくくって公開する企画展を開催していく予定です。次回、乞うご期待。

仕事か趣味か作品か素材か ～横山隆一の制作プロセスを考える～

横山隆一の仕事としてアニメーション制作がある。1955（昭和30）年に自主制作作品の「おんぶおぼけ」を発表、翌年1956（昭和31）年には、おとぎプロダクション（以下おとぎプロという）を設立して、本格的にアニメーション制作を開始する。活動期間は廃業を宣言していないため明確ではないが、当館が所蔵している（株）福光屋から1975（昭和50）年に送られた年賀状の宛先が「株式会社おとぎプロ」となっていることから、この頃までは「おとぎプロ」が世界的に認知されていたということになるだろうと思う。

おとぎプロは映像だけでなく、絵本の製作も手掛けている。現在確認しているものは、フレーベル館より「トツパンのえほんシリーズ」として『トツパンのおとぎえほん』15冊※①、『トツパンのキンダー絵本』1964（昭和39）年6月に『ふくちゃんと おもちゃのくに』※②を発行している。

『トツパンのおとぎえほん』15冊の絵本は巻末に発行年がないため、いつの作品か不明だが、1962（昭和37）年に「トツパンのえほんシリーズ」が発売開始※③になっているため、62年以降だと思われる。また隆一が、同じくフレーベル館が発売している『キンダーブック四～五才用』に『そらとぶこま』の連載※④を始めるのが1964（昭和39）年4月からであること、『ふくちゃんと おもちゃのくに』が同年6月発行であることから、フレーベル館との仕事が同時期であると推測し、1964（昭和39）年前後に出版されていたと考えられる。なお、国立国会図書館リサーチで検索をすると出版年が1963（昭和38）年～1966（昭和41）年となっているがこれも定かではない。

『トツパンのおとぎえほん』は「10 さるとかに」以降の巻末に、「この絵本は上の写真のようにきりがみを素材として作られたきりがみえほんです。」（写真1）という文面がある。隆一は切り絵が大得意で、挿絵に切り絵を使う事もあった。『ふくちゃんと おもちゃのくに』を含めた16冊の絵本は、切り絵を場面立たせて配置し、カメラで撮影する手法で作られている。カメラが大好きな隆一にとってこの仕事は楽しいものであったのではないだろうか。これらはいわゆるジオラマであり、古い言い方をすれば、立版古（たてばんこ）といったところだろうか。

立版古について隆一の言葉を借りて説明をすると、**絵画を切り抜いて立体的にセットするジオラマであり、芝居の舞台をそのまま小さくし、人物も配置して中へろうそくなどで灯りを入れて眺めるもの※⑤**とのこと。夏の風物詩として親しまれており、本格的なものは間口が1メートル、奥行き50センチほどの大きさになり、子どもの頃の隆一が制

作したものは間口30センチ、奥行き20センチの大きさであった。隆一は、家の前に自作のたてばんこをおいて、通る人に見てもらいたくて、1人で番をし、通行人が立ち止まって、たてばんこの中をのぞいてくれたりすると、うれしくてぞくぞくした※⑥と語っている。

企画展のため、当館所蔵のきりがみを絵本の場面どおり再現する試みを行ったことがある※⑥。どのようなカメラで撮影されたか不明のため、絵本のカメラアングルから考察し、実際にきりがみを立てていくと、どの作品もおおむね間口60センチ程度になった。絵本では見切れているところもあるので、実際はもう少し大きいセットだったのではないかと推測される。実際に作業をしてみて感じたのは立てていくだけでも相当の労力であり、絵を描き、切り抜き、背景セットまで作るのは大変な作業だったと想像できる。絵本の仕事をおとぎプロとして受けているのは、コマ撮り映画のようなつくり方でもあるし、そもそもこれだけの仕事量となると、人員が必要だったことも要因ではないだろうか。



写真4：がりばーのたび



写真1：さるとかに



写真5：ガリバー1997-98

後年、絵本で使われたセットを別の作品（ジオラマ）としてリメイク制作している。（写真2、3、4、5）これは展覧会用に制作されたもので、絵本制作から30年ほど経っている。隆一は物を捨てない人だったため、沢山の「もの」が残っている。趣味のものであったり、仕事のものであったりする。愛着からなのかと考えたが、必ずしもそうともいえない。先に述べた絵本で使われたセットを、30年ほど大切にしておいて、自分の展覧会でジオラマを制作する時に、平気で手を入れて原型を変えてしまうのである。作品として残しているというよりは、いつでも何かに使える素材として残していたのかもしれない。

仕事であったり、趣味であったり、作品であったり、素材であったりと、同じ「もの」の立ち位置が状況や時間の経過によって、コロコロ変わってしまう所に横山隆一の面白さがあるように思う。（学芸員 大野雅泰）

【注】※① ぶんぶくちやがま 2 がりばーのたび 3 てんぐのたいこ 4 こびととくつや 5 らいおんのめがね 6 かもとりこんべえ 7 うかればいおりん 8 かくれみの 9 六にんのごうけつ 10 さるとかに 11 ちびのしたてや 12 おどるおひめさま 13 ふしぎなよこぶえ 14 こぶとり 15 おむすびころりん

※②フレーベル館100年史 P389

※③フレーベル館100年史 P104 P201

※④フレーベル館100年史P378

※⑤大衆酒場「たてばんこ」P32-P34

※⑥2018年度企画展「ゆかいな隆一絵本展」7/14-9/24



写真2：うかればいおりん



写真3：泣く家（仮）1997-98

2024夏休みまんが体験イベント 「めざせ！まんが職人」

夏休み恒例の工作イベント「めざせ！まんが職人」を、7月30日（火）～8月17日（土）までのうち6日間、12コースで開催しました。小学校の夏休みの宿題にぴったりとあつてか、定員を大きく上回る675名の申し込みがあり、子どもたちの（ともしればお父さんお母さんの？）熱意をひしひしと感じました。

このイベントの工作は、工夫を加えていけばいくらでも完成度を高められるものばかりです。最初は手探りで始めた子も時間が経つにつれ熱が入り、気づけば終了間際慌てて仕上げに向かう、なんてことはよくあります。始めてみればやる気もアイデアもどんどん出てくるものです。おうちでも是非工作に挑戦してほしいと思います。



紙コップとストローで潜水艦を作りました！
素晴らしい！

行事案内 INFORMATION

まんさいーこうちまんが フェスティバル2024

高知市のまんがイベント「まんさいーこうちまんがフェスティバル2024」が11月2日・3日に開催されます。今年も、声優の小野大輔さん、森久保祥太郎さんがゲストとトークを繰り広げる「まんさいー親善大使の部屋（壱・弐）」、まんが家のライブドローイング、高知在住のプロのまんが家とまんがについて話をしたり作画のアドバイスを受けたりできるコーナー、まんがを「描いて」楽しむ「まんがで遊ぼう」コーナーなどたくさんあります。イベントを予定しています。参加ゲストやイベントに関する最新情報は、<https://mansai.org/>でチェックしてね。

開催日●2024年11月2日（土）、3日（日・祝）
時間●10:00～16:00（一部イベントを除く）
場所●高知市文化プラザかるぽーと ほか
参加料●入場バスポート 小学生以上各日550円
※別途料金が必要なイベントがあります
主催●高知市、こうちまんがフェスティバル実行委員会

トピックス TOPICS

第33回 まんが甲子園開催

第33回全国高等学校漫画選手権大会（まんが甲子園）が、8月3日・4日に高知市文化プラザかるぽーとで開催されました。

予選を勝ち抜いた県内3校（土佐高校、高知商業高校、追手前高校）を含む33校の高校ペン児たちが、2日間にわたり熱い戦いを繰り広げました。出題されたテーマの作品を、限られた時間内でB2大のパネルに描き競い合うこの競技は、これまでの勝ち上がり方式から昨年ルールが変更され、全校が2日間の試合に参加して、両日それぞれ10の優秀作が選ばれ、その選ばれた20作品の中から最優秀賞ほか各賞が決まるという、いわば総当たり戦での勝負です。

1日目のテーマは「バディ」。優秀校10校のうち県勢は、土佐高校、高知商業高校の作品が選ばれました。土佐高校は、テーマ「白」の2日目も優秀校に選ばれ、結果1日目の作品で、みごと2位に輝きました。さらに、2日目の作品も常屋町賞を受賞するという活躍ぶりでした。

会場内に設けられたブースの中には地元高校生ブースがあり、県内高校まんが部の生徒が自身の作品の展示やオリジナルグッズを販売するなど、まんがを通じて交流を図っていました。高校生たちのはじける笑顔にこちらも元気をもらった2日間でした。

行事案内 INFORMATION

第8回 お城下文化の日

毎年恒例の「文化」をキーワードにしたイベント「第8回お城下文化の日」が11月17日（日）に開催されます。このイベントは高知市内中心部の7つの文化施設（通称「お城下ネット」）が連携・協力しながら実施するもので、まんが館も参加します。当日は常屋町商店街アーケードやオーテピア多目的広場、各施設などを会場に様々なイベントを行う予定です。まんが館は似顔絵描きや特別企画を行います。バラエティ豊かなイベントです。ご期待ください！



アーケード内に各施設の展示や体験ブースが出展されます（写真は昨年度のまんが館工作ブース）

館のご案内

開館時間 9:00～18:00
休館日 毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）
常設展示観覧料
一般410円
団体（20名以上）320円・65歳以上200円・高校生以下無料
身体障害者手帳（1、2級）、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介護者（1名）は200円
お問い合わせ先
〒781-9529 高知市九反田2-1
高知市文化プラザかるぽーと内
横山隆一記念まんが館
TEL:088-883-5029
FAX:088-883-5049
URL:<https://www.kfca.jp/mangan/>
E-mail:mangan@kfca.jp



新着図書（2024年5月～7月）

オススメピックアップ！
『ちいかわ なんかに小さくてかわいいうつ』1～6巻 ナガノ
『かるいのつやごと』1～12巻 小田ゆうあ
『龍とカメレオン』1～4巻 石山諒
『TAKUPEDIA』古川タク
『ONE PIECE』109巻 尾田栄一郎



横山隆一記念まんが館へは、高知市文化プラザかるぽーと3階の入口よりご入場ください。その他、続々入荷中！

フク話内

小学生のころは、好きな映画やアニメをビデオに録画して繰り返し見られるようにしていた。一時停止でCMをカットして続けて楽しめる工夫もした。一瞬暗転するタイミングを見計らって再生ボタンを押さなければならないので、それなりのテクニックが必要だった。最近の映画やアニメはリアルタイムで見なくても、サブスクでまとめて休日に見られるので便利だと思う。TVCMもないし、好きな時に止められるし、どこでも見られる。AIやロボットが登場して日々便利になり、未来の未来は何も自分で出来なくなるのではないだろうか、とSFまんがみたいなことを考えてしまう。（大）